

(別冊 2) 令和 6 年度 熊本市エイズ総合対策報告書

ボランティアグループについて

令和 7 年(2025 年)4 月

熊本市 感染症予防課

I 熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまびあ」について

1 「くまびあ」について

熊本大学医学部保健学科看護学専攻の学生を中心としたグループ。ピアカウンセリングの手法を取り入れたワークショップ(コミュニケーション・ライフプラン・性などについて)などを通し、ピア(仲間)として高校生や大学生と一緒に良いコミュニケーションについて考えたり、エイズ・性感染症や性に関する正しい知識を伝えたりする活動を行っている。

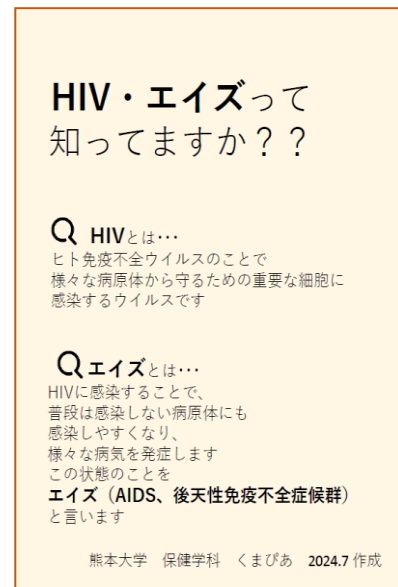
2 令和6年度の主な取り組みについて

・HIV(エイズ)・性感染症についての研修

令和6年7月3日 くまびあ参加者:9名

・くまびあオリジナル リーフレット制作

「大学の学園祭」や「感染症予防課が実施する出前講座」などで生徒・学生へ配布



・熊本保健科学大学学園祭でのキャンペーン

令和6年10月19日(土曜)

くまぴあ参加者:12名

○HIV/エイズ・性感染症クイズ



○性感染症広がるゲーム(実験)



○オーナメント作り



○パネル展示



・Instagramへの投稿

令和6年12月1日「世界エイズデー」



Ⅱ ゲイ支援グループ「Safety Blanket」について

Ⅰ 背景

国内のHIV感染者・エイズ患者（日本国籍）のうち、約6割が男性同性間の性的接触による感染と多くを占めており、MSM（男性間で性行為をするものを言う、以下同じ）への予防啓発・教育と検査の推進が急務とされている。

MSM人口は、成人男性（20～59 歳）の約 4.9%※といわれており、熊本市内にも複数のゲイ向け商業施設等がある。しかし、偏見や差別が存在している社会背景等や、性的指向の側面で配慮が必要なことから、これらコミュニティへの行政による積極的な介入は逆効果と言われており、本市においてもこれまで有効なアプローチ方法がなく、長年、当事者グループによる主体的な活動が望まれてきた。

※出典：H24 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」（代表市川誠一）

2 経緯

平成 26 年 8 月に、福岡県の NGO「LOVE ACT FUKUOKA (LAF)」から市感染症対策課へ、「熊本で活動しているゲイ当事者によるサークル「KK」のメンバーが、行政と連絡を取ることを希望している」との連絡があった。これを受け、9 月に、関係者による連絡会を開催し、協働に向けた取組みを開始した。

※グループ名は、平成 28 年 2 月に「KK」から「Safety Blanket」（通称「セーブ」）へ改名された。

3 Safety Blanket について

(1) 構成 熊本在住の 30～40 代男性 2 名

(2) 主な取組み

- ・SNS を活用した情報発信
- ・当事者対象の茶話会の実施
- ・セクシュアルマイノリティ当事者として、各種研修会等での講話活動
- ・熊本市保健所とのエイズ啓発に関する取組み

4 令和 6 年度の取組みについて

- ・ゲイ向けクラブイベントでコンドーム付啓発カードを配布

